様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：３３８０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０１６３５

研究課題名（和文）スポーツ実践思想に関する研究：PTの解明、理論と実践の統合とその応用可能性

研究課題名（英文）Study about the Practical Thought of Sports: Elucidation of PT, Integration of Theory and Practice and Applicability

研究代表者
高根　信吾（TAKANE, Shingo）

常葉大学・経営学部・准教授

研究者番号：７０４４０６０９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：期間内における本研究の研究業績としては、国内外の学会誌などへの23件の論文投稿および掲載、国内外の学会における14件の発表、図書3冊の出版を行った。主な研究業績としては、PTをバレーボールに応用した研究である、高根信吾他「スポーツ実践思想における一考察―バレーボールにおけるトータルディフェンス―」（常葉大学経営学部紀要、第7巻第2号、17-26ページ、2020）が挙げられる。また、国内研究会も複数回開催し、最終的には著書出版についても具体的な立案を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では、PTという観点から、スポーツ実践思想という理論とスポーツ現場における実践の統合という視点を持って、他のスポーツへの応用可能性を試みた。事例として取り上げたバレーボールでは以下の成果を得た。トータルディフェンスは、サーブ、ネットディフェンス、フロアディフェンスの3局面に分節されるが、それぞれの3局面は独立しているのではなく有機的なものであった。バレーボールにおける実践思想としてトータルディフェンスにはPTの特性（複雑性、自己相似性、特異性）との親和性が認められ、トータルディフェンスという実践思想を取り入れることによって指導法の改善と成績向上の一助となることが示された。

研究成果の概要（英文）：As the achievements of this research within the period, we published 23 papers in domestic and international academic journals, presented 14 papers at domestic and international academic conferences, and published 3 books. As a major research achievement, a research that applied PT to volleyball, SHINGO TAKANE (omit), "A Study about the Practical Thought of Sports: Total Defense in Volleyball" (Bulletin of Faculty of Business Administration Tokoha University, Volume 7, No. 2, pp. 17-26, 2020). We also held domestic study groups and finally made concrete plans for the publication of books.

研究分野：スポーツ科学

キーワード：戦術的ピリオダイゼーション

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

現代においてヨーロッパのビッグクラブの環境や富にもとづく英知は、世界のサッカーをリードするとともに、他のスポーツ種目のモデルとなる可能性を存分に秘めている。そのなかでも本研究が注目するのが、1960 年代後半にヴィトール・フラーデ氏によって提唱された「戦術的ピリオダイゼーション」（以下、PT と略記）である。PT とはこれを採用しているチェルシーFC 監督ジョゼ・モウリーニョ氏の、UEFA チャンピオンズリーグ優勝 2 回、欧州 3 大リーグ制覇という輝かしい成績によって、隣国のスペインやイングランドのみならず、オランダやブラジル、ウルグアイ、アルゼンチン、コロンビア、さらにはアラブ諸国においても急速に広まりつつあるトレーニングメソッドのことである。我が国でも、元 FC バルセロナ福岡スクールコーチの村松尚登氏が自らの著書で同理論を紹介したことで少しずつ知られるようになってきているが、むしろその半面、PT はトレーニングメソッドとしてだけでなく、ある種のスポーツの実践思想として、サッカー界に強いインパクトを与えている。なぜなら、PT においては「サッカーとは何か」「集団スポーツゲームとは何か」ひいては「スポーツとは何か」という原理的な問いに対する思索がなされており、それらの問いに答えることは、サッカーやスポーツの学術的理解を深め、サッカーを通じたスポーツ文化の普及や発展にもつながると考えられるからである。しかしながら、通常サッカー研究者においては、PT を研究対象とする場合、その思想内容の難解さ、ポルトガル語という言葉の壁、一次資料の不足などといった理由から、PT の思想と正面から向き合うことは非常に困難であると見なされている。このため、これまで PT については、その思想内容に部分的に言及する研究やその応用可能性を指摘する研究はいくつか存在するものの、その思想的全容を明らかにするような研究は我が国ではほとんど行われてこなかった。われわれの研究グループでは、すでに取得した科研費研究のなかで、PT の基本文献の翻訳作業やその思想背景に関する予備的考察を行なうことによって、PT が思想的背景を持つことを明らかにしており、その結果をふまえて本研究では、PT の思想的全容を解明するための方法論的視座を措定することにしている。

２．研究の目的

本研究の目的は、近年サッカー界で注目を集めている PT の思想的全容の解明、理論と実践の統合とその応用可能性を探ることである。PT とは、1970 年代中頃にポルト大学元教授ヴィトール・フラーデ氏によって提唱されたスポーツの実践思想であり、また現在世界で最も優秀なサッカー監督の一人であるジョゼ・モウリーニョ氏（現トッテナムホットスパーFC 監督）によって採用されているトレーニングメソッドのことである。スポーツの実践思想としての PT の全容が明らかとなれば、スポーツにおける理論と実践の統合が容易となり、サッカーだけでなく他の「対戦型集団球技スポーツ」の指導法の改善と成績向上が期待できる。

３．研究の方法

PT の人間学的、科学哲学的、行動学的、教育社会学的などの側面から思想研究を行う一方で、PT は〈スポーツの実践思想〉であると同時に具体的なトレーニングメソッドであるから、本研究が理念的もしくは思弁的になってしまうのを防ぐため、本研究は、PT の指導実践の映像データを PT の理論や PT の実践者のインタビュー結果と擦り合わせて比較検討し、PT の理論と実践との統合を図る。スポーツ実践思想の理念の実現の一助となるような具体的事例を挙げ、成績向上などに寄与する教授方法論および指導法論的な模索も同時に行った。

４．研究成果

本研究では、4 年間を通じて、国内外の学会誌などへの 23 件の論文投稿および掲載、国内外の学会における 14 件の発表、図書 3 冊の出版を行ったが、ここでは、PT の解明およびその応用可能性についての成果を提示する。

⑴基礎的研究として 3 点の著書を成果としてあげた。特に『左と右・対称性のサイエンス』第 6 章「スポーツにおける左と右　−サッカーの対称性と反対称性をめぐって」においては、スポーツ構造論およびスポーツ現象学を基礎としつつ、サッカーの特殊性、サッカーの対称性と反対称性を提示し、文化の「周縁」としてのスポーツについて考察した。そこでは、フラーデ氏による PT の思想背景にはスピノザの哲学、複雑系の科学、脳科学、サイバネティクス、プラグマティズムなど、さまざまな学問分野が複雑に絡み合いながら存在していることを指摘した。フラーデ氏は、サッカーを「カオス」であり、「フラクタル」であると定義し、選手の怪我や退場、気象の変化、オフザピッチの影響などといった、わずかな初期条件の違いによっても結果が大きく変わってくる「複雑性」と、サッカーはどこを切ってもサッカーでなくてはならないという「自己相似性」に触れ、サッカーは、通常その要素とみなされている技術・戦術・フィジカル・メンタルにそれぞれ分割してトレーニングすることはできないとして、サッカーはサッカーをすることでしか上手くならないという PT のトレーニング原則を提示した。さらに、例えば、ボールキープタイプのポゼッションサッカーや速攻タイプのカウンターサッカーなどにみられるような

「どのようなサッカーをすべきか」といったチームコンセプトとしての「ゲームモデル」、すなわち「特異性」という概念を重要視した。つまり、「複雑性」「自己相似性」「特異性」の 3 つを PT の特性とした。

⑵ポルトガルで開催された PT の国際会議に参加してフラーデ氏など海外 PT 研究者と情報交換を行ったり、スペインのアトレティコ・マドリードサッカークラブやバルセロナサッカー場、イギリスのチェルシー練習場、フランスの LOSC リール・メトロポール練習場を訪問したりして、資料収集やインタビューを行った。それらを基に、国内学会（日本バレーボール学会・日本武道学会など）での研究発表や論文投稿をはじめ、海外（マレーシア・イタリア・イギリスなど）でも研究発表を実施した。その際、サッカーはもちろん、バレーボールやハンドボール、武道を対象とした研究を成果としてあげた。特に、PT をバレーボールに応用した研究として、「スポーツ実践思想における一考察―バレーボールにおけるトータルディフェンス―」においては、バレーボールにおける実践思想としてトータルディフェンスに着目し、PT の諸特性という観点から考察を進めた。PT の中心的なコンセプトのひとつである「シチュエーショントレーニング」は、試合の中で生まれるシチュエーション（状況）を取り上げ、トレーニングの中で再現することを重要視する。試合において生起するプレーを想定して、それを解決するというメニューを繰り返すことで、試合の中で同じような状況に置かれた時にもそれへの対応が身に付いているようにするというものである。1 つの状況に対する判断と対応を、トレーニングを通じて一人ひとりが共有することによって、同じ状況に置かれた時にはペア、グループ、そしてチーム全体が同じ考え方を持ち、意思統一された 1 つの組織として対応することが可能となるというコンセプトである。PT の特性である自己相似性の観点からは、フラクタル構造を壊さないレベルでバレーボールを分割して、試合に応用可能なトレーニング、すなわちシチュエーショントレーニングを実施することが得策であり、バレーボールにおいては、最小構成要素である「ラリー」に着目し、トレーニングの単位は「ラリー」を基本として、シチュエーショントレーニングを実施すべきであることを指摘した。

　また、期間内には国内研究会も開催し、本研究の全成果をまとめた著書出版についても具体的な立案を行った。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計23件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 安田貢、遠藤俊郎、高根信吾	４．巻 21
２．論文標題 試合出場できない苦しさを訴えるアスリートとの面談―傾聴サポートによるアスリートの成長過程の相違―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 バレーボール研究	６．最初と最後の頁 20-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 高根信吾、佐々木究、田井健太郎、上泉康樹	４．巻 7-2
２．論文標題 スポーツ実践思想における一考察―バレーボールにおけるトータルディフェンス―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 常葉大学経営学部紀要	６．最初と最後の頁 17-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 村本名史、高根信吾、瀧澤寛路、塚本博之、河合学、湯澤芳貴、今丸好一郎	４．巻 14
２．論文標題 2015FIVBワールドカップ浜松大会における世界一流男子バレーボール選手のスパイク動作	５．発行年 2020年
３．雑誌名 常葉大学健康プロデュース学部雑誌	６．最初と最後の頁 51-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 塚本博之、高根信吾、村本名史、安田貢	４．巻 22
２．論文標題 バレーボールにおけるタイムアウトの有効性について －タイムアウト要求前後のゲーム展開の比較－	５．発行年 2020年
３．雑誌名 静岡産業大学情報学部研究紀要	６．最初と最後の頁 277-289
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 上泉康樹、北川修平	4．巻 25
2．論文標題 サッカーのゲームの分析のための原理論構築に向けたスポーツ現象学に関する研究―ゴール型集団球技スポーツの身体性について―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 身体運動文化研究	6．最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐々木究	4．巻 29
2．論文標題 体育思想点描―身体と教育の接点のあり方を巡って―	5．発行年 2019年
3．雑誌名 MIND-BODY SCIENCE	6．最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kyu Sasaki	4．巻 17
2．論文標題 Meaning of the Term “Tai-iku” in the Principles of Physical Education by Heizaburo Takashima	5．発行年 2019年
3．雑誌名 International Journal of Sports and Health Science	6．最初と最後の頁 A1-A8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.5432/ijshs.16022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hiroyuki Imamura ,Kazuto Oda, Aya Ishibashi, Kentaro TAI , Kazuhide Iide, Yoshitaka Yoshimura	4．巻 9
2．論文標題 Iron Nutritional Status of Karate Player	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of Athletic Enhancement	6．最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 末次美樹，田井健太郎	4．巻 14
2．論文標題 空手道に携わる女性の現状についての調査研究	5．発行年 2020年
3．雑誌名 駒澤大学総合教育研究部紀要	6．最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田井健太郎，神野周太郎，元嶋菜美香，宮良俊行，島孟留，末次美樹，麓正樹，今村裕行	4．巻 37
2．論文標題 中学校武道領域における空手道授業に関する研究―教員養成課程における模擬授業の検討を通して―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 群馬大学教育実践研究	6．最初と最後の頁 163-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hiroyuki Imamura, Kazuto Oda, Kentaro TAI, Kazuhide Iide, Gou Hayata, Noriaki Hatashima, Yoshitaka Yoshimura	4．巻 5-8
2．論文標題 Health Aspects of Karate As Physical Education and an Extracurricular Activity	5．発行年 2019年
3．雑誌名 European Journal of Physical Education and Sport Science	6．最初と最後の頁 20-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5281/zenodo.2648075	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Kentaro TAI, Shutaro JINNO, Namika MOTOSHIMA, Toshiyuki MIYARA, Takeru SHIMA, Miki SUETSUGU, Masaki FUMOTO, Hiroyuki IMAMURA	4．巻 14-2s
2．論文標題 A Study of a Karate Trial Teaching Class in a Teaching-Training Course －Based on Students' Formative Assessment－	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Revista de Artes Marciales Asiaticas	6．最初と最後の頁 9-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18002/rama.v14i2s.6001	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐々木究、桑原康平	4．巻 7
2．論文標題 ゴールキーパーの位置取りに関する言説について：あるいは鉛直軸という観点の意義	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ハンドボールリサーチ	6．最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐々木究	4．巻 29
2．論文標題 体育思想史点描-身体と教育の接点のあり方を巡って-	5．発行年 2019年
3．雑誌名 MIND-BODY SCIENCE	6．最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 游添燈，高橋浩二，荒牧亜衣，田井健太郎	4．巻 40
2．論文標題 台湾におけるスポーツ哲学研究の動向	5．発行年 2018年
3．雑誌名 体育・スポーツ哲学研究	6．最初と最後の頁 12-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中井聖、村本名史、栗田泰成、高根信吾、瀧澤寛路、塚本博之、河合学	4．巻 19
2．論文標題 バレーボールコート内の既知点を用いた3次元座標空間の再構築方法の精度とその特徴	5．発行年 2017年
3．雑誌名 バレーボール研究	6．最初と最後の頁 34-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 安田貢、高根信吾	4．巻 30
2．論文標題 大学生スポーツ選手の失敗に対する学習可能性が抑うつ症状におよぼす影響	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Journal of Health Psychology Research	6．最初と最後の頁 34-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 村本名史、高根信吾、瀧澤寛路	4．巻 12
2．論文標題 大学における体育実技（バレーボール）の反転授業およびIT活用の実践	5．発行年 2018年
3．雑誌名 健康プロデュース学部雑誌	6．最初と最後の頁 81-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 新保淳、村田真一、大村高弘、三原幹生、河野清司、高根信吾	4．巻 49
2．論文標題 ESDを視野に入れた学校体育におけるプログラム開発－体育実践におけるパフォーマンス評価を事例にして－	5．発行年 2018年
3．雑誌名 静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）	6．最初と最後の頁 155-170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 佐々木究	4．巻 39-1
2．論文標題 高島平三郎における体育の基盤的論理の探求	5．発行年 2017年
3．雑誌名 体育・スポーツ哲学研究	6．最初と最後の頁 19-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 佐々木究	4．巻 67-4
2．論文標題 スポーツによるJ.J.ルソー	5．発行年 2017年
3．雑誌名 体育の科学	6．最初と最後の頁 271-275
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田井健太郎，谷木龍男，麓正樹，今村裕行	4．巻 14
2．論文標題 学校体育における空手道の可能性－『平成20年改訂中学校学習指導要領』をもとに－	5．発行年 2017年
3．雑誌名 空手道研究	6．最初と最後の頁 15-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 元嶋菜美香，熊谷賢哉，宮良俊行，田井健太郎	4．巻 18-1
2．論文標題 地域スポーツ教室の参加継続に関わる要因の検討－参加した親子の継続意思に着目して－	5．発行年 2017年
3．雑誌名 体育・スポーツ教育研究	6．最初と最後の頁 5-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計14件（うち招待講演　0件／うち国際学会　5件）

1．発表者名 塚本博之、村本名史、高根信吾、安田貢
2．発表標題 タイウアウト要求前後の得点経過の比較
3．学会等名 日本バレーボール学会第25回大会
4．発表年 2020年

１．発表者名 Kohki Uwaizumi, Koji Kuramoto, Shuhei Kitagawa, Shingo Takane
２．発表標題 Adaptation of Social Emotions for Introducing Tactical Periodization into Japanese Soccer
３．学会等名 International Conference on Developmental Physical Education for Children and Youth (ICDPECY-20, London, UK)（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Shuhei Kitagawa, Kohki Uwaizumi, Shingo Takane, Kohji Kuramoto
２．発表標題 Knowledge Management Research in Tacit Knowledge of Sports -Focusing on Culture and Life Rhythm Formed Tacit Knowledge-
３．学会等名 International Conference on Developmental Physical Education for Children and Youth (ICDPECY-20, London, UK)（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Namika MOTOSHIMA, Aya MIYAMOTO, Kentaro TAI, Toshiyuki MIYARA, Kenya KUMAGAI
２．発表標題 Contribution of college student leaders’ consciousness towards participants’ intention to continue attendance in community sports classes for children
３．学会等名 The 24nd Annual Congress of the European College of Sport Science (Praha, Czech Republic)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 末次美樹，田井健太郎
２．発表標題 空手道に携わる女性の現状についての調査研究
３．学会等名 日本武道学会第52回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kentaro TAI, Kohki UWAIZUMI, Kyu SASAKI
２．発表標題 The Study on the Physical Culture of Budo －Based on the review of the Heiho series－
３．学会等名 The 2019 Meeting of The International association of philisophy of Sport (Kyoto)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kentaro TAI, Shutaro JINNO, Namika MOTOSHIMA, Toshiyuki MIYARA, Takeru SHIMA, Miki SUETSUGU, Masaki FUMOTO, Hiroyuki IMAMURA
２．発表標題 A Study of a Karate Trial Teaching class in a Teaching-Training Course －Based on Students' Formative Evaluation－
３．学会等名 The 8th International Conference of IMACSSS 2019 (Viseu, Portuguese Republic)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 高根信吾、村本名史、安田貢、塚本博之、瀧澤弘光、河合学
２．発表標題 タイムアウトは相手チームのブレイクを阻止する有効な手段か
３．学会等名 日本バレーボール学会第24回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 村本名史、高根信吾、安田貢、塚本博之、瀧澤弘光、河合学
２．発表標題 タイムアウト取得に関する指導者の意識調査～静岡県と山梨県において～
３．学会等名 日本バレーボール学会第24回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 北川修平、高根信吾、木庭康樹
２．発表標題 A Study on Theory of Body in Maurice Merleau-Ponty’s Phenomenology－Focusing on the analysis of a person with disability－
３．学会等名 2017 WEI International European Academic Conference on Education and Humanities
４．発表年 2017年

１．発表者名 村本名史、高根信吾、瀧澤寛路
２．発表標題 大学における体育実技（バレーボール）の反転授業およびIT活用の実践
３．学会等名 日本バレーボール学会第23回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 田井健太郎
２．発表標題 The Peculiarity of the Budo as part of the Physical Arts culture : Focusing on the historical evolution of Budo
３．学会等名 The 22nd Annual Congress of the European College of Sport Science
４．発表年 2017年

１．発表者名 志々田文明、田井健太郎
２．発表標題 武術・武道研究の根本問題：技の分類（科学的方法）の意義と意味
３．学会等名 日本体育・スポーツ哲学会第39回大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 木庭康樹　他
２．発表標題 A Study on Theory of Body in Maurice Merleau-Ponty’s Phenomenology－From the viewpoint of ‘Waza’ in Japanese High School Baseball－
３．学会等名 2nd Asia-Pacific Conference on Performance Analysis of Sport 2017
４．発表年 2017年

〔図書〕　計3件

１．著者名 日本バレーボール協会編、高根信吾ほか	４．発行年 2017年
２．出版社 大修館書店	５．総ページ数 288
３．書名 コーチングバレーボール（基礎編）	

１．著者名 日本バレーボール学会編、高根信吾ほか	４．発行年 2017年
２．出版社 日本文化出版	５．総ページ数 128
３．書名 バレークロニクル　バレーボール年代記	

１．著者名 佐藤高晴責任編集、木庭康樹ほか	４．発行年 2017年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 176
３．書名 左と右・対称性のサイエンス	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	田井　健太郎 (TAI Kentaro) (00454075)	群馬大学・教育学部・准教授 (37303)	
研究分担者	佐々木　究 (SASAKI Kyu) (30577078)	山形大学・地域教育文化学部・准教授 (11501)	
研究分担者	木庭　康樹（上泉康樹） (KINIWA Kohki) (60375467)	広島大学・総合科学研究科・准教授 (15401)	